

皮膚科のトリビア

217

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●某製薬会社Web講演会から

令和4年3月8日

味覚障害と亜鉛の関係

2019年に行われた日本口腔・咽喉科学会による全国調査で、味覚障害の患者は220人/10万人・年で、30年前の調査の約2倍に増加している。60歳以上の高齢者に多く、男女比は2:3で女性に多い。味覚障害の原因は、伝導障害(加齢・全身疾患)、末梢受容器障害(亜鉛欠乏、薬剤性)、神経障害(全身疾患、薬剤性)、中枢障害(脳血管障害、認知機能障害)、心因的要素(ストレス、抑うつ)などに分類される。

亜鉛欠乏で生じる味覚障害は、味蕾の味細胞の構造上の異常(絨毛断裂、空胞化)があり、味蕾における基底細胞から味細胞の分化が障害され、新生までの時間が延長するとされていて、いずれも亜鉛投与で回復する。亜鉛の補充が治療に有効だが、血清亜鉛の目標値は80~130 $\mu\text{g}/\text{dL}$ で、過剰投与になると血清鉄、銅が低下する。味覚機能検査で治療効果を判定するのが望ましい。

一言コメント

「酢っぱいものは亜鉛の吸収をよくするという話もあった。味覚機能検査とは、電気味覚計を用いる検査と濾紙ディスク検査があるが、簡単ではなさそうだ。」

●第2回皮膚感染症くらぶ勉強会から

令和4年3月13日

ステルイズ®の用法・用量

国際的に梅毒治療の標準薬とされているベンジルペニシリン持続性筋注製剤「ステルイズ®水性懸濁筋注シリンジ」が本邦でも発売されることになった。製剤の一般名はベンジルペニシリンベンザチン水和物(BPB)で、用量はベンジルペニシリンナトリウム換算の単位数で表わされる。日本性感染症学会がこの薬剤の位置づけ、使用時の留意点を公表した。①神経梅毒を除く活動性梅毒の治療薬として、本剤を従来の第1選択薬であるアモキシシリンと同等の位置づけとする。②早期梅毒(感染から1年未満の活動性梅毒)と後期梅毒(感染から1年以上を経た活動性梅毒)で注射回数が異なっていて、早期梅毒では240万単位を単回、後期梅毒では週1回、計3回である。I期、II期といった梅毒の症候型による区分ではないことに注意する。③本剤投与後、Jarisch-Herxheimer反応をきたす可能性があるの、あらかじめ説明しておくこと。とくに、妊婦に生じた場合は子宮収縮が誘発され早産をひきおこす可能性があるため産科医の診察を受けることが望ましい。

一言コメント

「早期、後期という用語の使い方に違和感があった。早期顕症梅毒(I期、II期)と感染後1年以内の早期潜伏梅毒を早期梅毒、感染後1年以降の後期潜伏梅毒と晩期梅毒を後期梅毒と呼ぶこともあると、国立感染症研究所のHPに書いてあった。」

●糖尿病ラウンドセッションから

令和4年3月15日

Cushing症候群に伴う
糖尿病の特徴

副腎腫瘍に伴うACTH非依存性Cushing症候群による糖尿病の特徴。インスリン抵抗性が主体であるが、長期にわたるとインスリン分泌の低下も生じる。食後血糖が高値で、早朝血糖は比較的正常に保たれているが、午後に血糖が高くなる。副腎腫瘍の術後には、空腹時血糖の変動は大きくないが、HbA1cは比較的速やかに低下し、糖尿病自体も回復する。ただし腎症、網膜症、神経症などの合併症は回復しない。

治療は速効型を中心としたインスリンが主体。グリニド、インクレチン製剤は有効。ビグアナイド薬は有効だが、心疾患、腎障害、感染リスクで使えないことがある。ピオグリタゾンには浮腫、骨密度低下を増悪させるリスクがある。スルホニル尿素薬、SGLT2阻害薬はあまり適していない。

一言コメント

「糖尿病の治療薬の作用、副作用はなかなか覚えきれない。皮膚症状をきたすこともあるので、皮膚科医としても知っておくべきであると思う。」

●第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

令和4年4月30日

給食用のパンとミルクアレルギー

学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)の正しい書き方についての講演。鹿児島県では指導表を集め、記載内容の評価を行い、それに基づいた講習会を行っている。

ミルクアレルギーに関しては給食用のパンについて注意が必要で、食パン1枚には4 cc分の、コッペパン1個には30 cc分のミルクが入っている。牛乳には3.3%の蛋白質が含まれるが、加工乳製品を牛乳に換算すると、ヨーグルトはほぼ同じ。バターはほとんどが脂質で、蛋白質は0.6%で1/5、チーズは蛋白質が20%ほどで、牛乳の7倍。牛乳を10 cc飲めれば、ヨーグルトは10 g、チーズは1.5 gが限度。バターは50 gでも問題なしと考えてよい。

一言コメント

「パンによるアレルギーは、小麦だけではないということ。ミルクにも注意が必要と知った。指導表を集めて検討することは、地域の学校保健上必要なことと感じた。」

●第38回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

令和4年4月30日

ADCTによるアトピー性皮膚炎の
長期管理

ADCT (atopic dermatitis control tool) はアトピー性皮膚炎の疾患コントロール指標で、症状と痒みの重症度、睡眠、活動、気分と感情への影響を、患者の視点から総合的に評価できる。6項目あり、各項目は0～4点で、24点満点。合計7点以上、睡眠は1点以上でコントロール不良の可能性がある。初診の平均は11.1点、アドヒアランス不良群の平均は10.0点、規則正しく来院する群は3.9点で、IGA (investigator's global assessment) とはよく関連していた。

全身療法を含めた治療ランクアップの決定に役立ち、問題のある項目について、患者とのコミュニケーションを図れるきっかけになる。

一言コメント

「当院でも導入している。中にはIGAとの乖離がある例もあり、経過の長い中等症以上の患者で、慣れのためか低めに点数をつける例がある。当院では12点以上で、新規全身治療薬開始の提案をするようにしている。今後も続けていきたい。」